

第12回教育委員会会議録

1 日 時 平成30年12月19日（水） 開会：14時30分
閉会：16時00分

2 場 所 周南市岐山通1丁目1番地
周南市役所 2F共用会議室G

3 出席委員 中馬好行教育長 池永博委員 松田敬子委員 大野泰生委員 片山研治委員

4 説明のため 教育部長 教育政策課長 生涯学習課長 学校教育課長 人権教育課長
出席した者 学校給食課長 中央図書館長 新南陽総合出張所次長 熊毛総合出張所次長
鹿野総合出張所次長

5 書記 教育政策課課長補佐、教育政策担当係長

6 議事日程等

日程順位	件名
1	会議録署名委員の指名について
2	議案第43号 平成31年度 周南市立小・中学校人事異動内申方針について

7 委員会協議会

- (1) 1月の教育委員会の共催及び後援大会等一覧について
(報告者：教育政策課→生涯学習課→学校教育課)
- (2) 学校給食センター建設着工について (報告者：学校給食課)
- (3) 平成31年周南市成人式について (報告者：生涯学習課)
- (4) 中央図書館耐震化工事及び徳山駅前図書館について (報告者：中央図書館)

1	会議録署名委員の指名について
---	----------------

教育長

ただ今から「平成30年第12回教育委員会定例会」を開催いたします。
それではまず、日程第1、「会議録署名委員の指名について」でございます。
本日の会議録署名委員は、池永委員さんと片山委員さんにお願いします。

2	議案第43号 平成31年度 周南市立小・中学校人事異動内申方針について
---	-------------------------------------

教育長

日程第2、議案第43号「平成31年度 周南市立小・中学校人事異動内申方針について」を議題といたします。

この件について、学校教育課から説明をお願いいたします。

学校教育課長

それでは、議案書1ページ、議案第43号「平成31年度 周南市立小・中学校人事異動内申方針について」を説明いたします。

提案理由は、「周南市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第6号」に基づくものでございます。

この度、山口県教育委員会から、「平成31年度山口県公立小・中学校及び県立学校教職員人事異動方針」が示されましたので、周南市教育委員会においても、それに沿った「平成31年度周南市立小・中学校人事異動内申方針」を定めようとするものでございます。

この内申にしたがって、周南市教育大綱の基本理念である「未来（あす）に向かって、『共に』育む、周南の子供」の実現に向けた取組を推進し、子どもたちの健やかな成長のために、学校の教育諸課題の解決を支援し、地域とともにある学校づくりをめざして、周南市教育の実現に取り組みます。

なお、今年度の変更点は、本市の重点取組事項の3本柱のうち、「コミュニティ・スクールの充実」を前面に出したことと、県の人事異動方針が、昨年度から若干変更されておりますので、本市の異動内申方針についてもそれに準じ、4の2行目に「家庭・地域等と連携・協働して」という文言を加えたことです。

以上で説明を終わります。よろしく御審議、御決定いただきますようお願い申し上げます。

教育長

はい、ありがとうございました。この件についてご質問ございませんか。

池永委員

福川南小学校に学校活性化訪問させていただいたとき、臨時の先生が非常に多いなと感じまして、学校経営において苦慮されているような感じを受けました。福川南小学校だけではないと思うのですが、少しバランス的に難しい学校がいくつかあるのではないかと。産休・育休が多いということもあるので、仕方がない面もあるとは思うのですが、そのあたりが解消ができるのかどうか、お聞きしたいのですが。

学校教育課長

委員がおっしゃられるとおり産休・育休ですが、最近若い教員が増えている現状がありまして、

産休等の職員も実際に増えており、臨時採用職員ですら確保が難しい現状ではあります。異動の際にはそのようなバランスも踏まえたうえで検討していくのですが、現状は産休等の職員の数が従来に比べて多く、今後も増えるのではないかと思っております。

教育長

さらに、退職された方の再任用という形で、そういった方の臨時採用がかつてよりは増えてきているという現状にあります。

池永委員

これから外国語授業が活発になってくると思うのですが、小学校の外国語授業の中心になる教員が、バランスよく配置できるのでしょうか。このあたりは、県からの指示があるのでしょうが、どの学校も外国語の授業については、バランスのとれた教員の配置ができるようにお願いしたい。

学校教育課長

このあたりも大きな課題の一つだと思います。外国語活動の授業そのものを推進しながら、教職員の資質・能力の育成を進めているところで、実際には英語の推進として加配された中学校の英語教員が小学校に入ってそれが各校へ行って指導していくというシステムが始まっていますので、そういった形でしっかりと普及し、さらにはそういった力を持った教員を育てていくという両面から進めていくという考え方でございます。

教育長

小学校の教員の中でも中学校の英語の免許を持っている教員も複数います。それから今のような学力向上推進教員として英語専属という教員もいます。また小中連携の中で、中学校の英語の教員が小学校へ教えに行くということも昔に比べて多くなっており、ALTそのもの的人数も3人増やしてきたことや、小学校独自の研修も行われております。

大学では、そもそも小学校で英語の授業をやることを前提とした教育を受けていませんから、そのあたりでは非常に難しさがあるかと思いますが、なんとか英語教育を頑張ってやっていただいております。

片山委員

今の話と直接関連するものではないですが、英語教育が本格的にスタートするということで、今回的人事異動内申方針にも「地域と共にある学校づくり」というのがあります。これを小学校の英語教育に当てはめて考えた時に、小学校の英語の授業に中学校の英語の先生が支援に入ることやALTが入ること、それに加え、地域の人でもし英語を教える力のある人がいればボランティアとしてサポートするというのは可能なのでしょうか。もし可能であれば、地域の中にそういった人材がいれば活用できるのではないかと思うのですが。

学校教育課長

それは大変ありがたいことだと思います。ただ、教員の免許を持っていないので、主で指導することはできませんが、サポートという形で参加していただくことは可能です。現実に、県内でもそのようなボランティアが入る取組をしている学校はありますので、そういった人材が地域にいらっしゃれば、地域資源を活用することはとても有効な手段だと思います。

教育長

今、ALTが週1回の場合、年間35時間が標準の時間なのですが、計算上、その内の大体30時間ぐらいは担任のそばにいて授業を支援するという体制をとっています。そうは言ながら、残りの5時間というのは担任だけで授業をするわけですが、その場合には、画面を押せばネイティブの発音が聞えてくるというような教材を使いながら行っています。そして委員がおっしゃる

ように、地域の方で英語が堪能な方に支援いただく。岩国ではそのような方がたくさん入っているという現場があります。それは単に外国語ということだけに留まらず、地域の方と一緒に学ぶことができることで、その効果は非常に大きいと思います。

池永委員

住吉中学校に行ったときですが、男性の教員が少ないように感じました。小学校では女性の教員の比率が半数以上というのは知っているのですが、先生の男女のバランスというのは中学校でもそのような状況なのでしょうか。

学校教育課長

男女の比率については今、手元にデータがないため何とも言えないのですが、学校によって教科や教員の年数の関係もありばらつきがありますので、人事でもバランスの良い配置ということを考えています。

よく言われるのが修学旅行に行くのに女性の教員がいないと困るということもありますので、学校の中でもバランスを考えて、学年毎に男性教員しかいないということがないように最低限の男女のバランスを考えて配置をしてくのですが、難しいケースが出てくることもあります。

教育長

男女間のバランスもそうですが、世代間のバランスとか、小規模校の小学校になると運動会をやろうにも指導で飛び回ってくれる若手の男性教員がいないなど悩みのある学校もあります。

松田委員

議案書の2ページの3ですが、「同一校勤務が7年を超える者については、原則として異動を行う」とあるのですが、現在、7年を超える教員はどのくらいいらっしゃいますか。

教育長

ここに「原則として」と記載がありますように、例えば産休・育休になっている場合、休暇の途中で異動させるということは原則しませんので、そういう場合には7年を超えてる方はいます。私も一つの学校に13年ほどいたこともありますし、16年同じ中学校に勤務しているという教員もいました。今は原則7年で、よほどのことがない限りは異動があります。今の例以外で、7年を超えてるという例は小中学校とも、ほとんどないと思います。

学校教育課長

育休中に7年を超えた場合は、復帰した時に転勤という形になります。ただ7年という上限があるなかで、学校としては、人の交流ということで極力7年を待たずして異動をしておりまますし、最終7年残るというのは、今、手元にデータがないため何人とは申せませんが、最近は校内の年齢構成を意識した人事を進めるようになってきておりますので、決して多い人数ではないと思います。

教育長

県立高等学校の場合は10年です。

その他、ご質問ありませんか。

大野委員

コミュニティ・スクールがだいぶ活発になり、福川小学校では池永委員が始められた「マーチングバンド」がありますが、指導してくださる先生について、コミュニティ・スクールのメンバーの方からも話がでています。コミュニティ・スクールから、学校を通して依頼をした場合、そういった指導ができる先生にきてもらうことが可能なのかという話なのですが、そういうことは可能なのでしょうか。

教育長

現在、音楽の先生が欠員となっている市内の中学校もあります。小学校の場合も、吹奏楽の指導ができる教員は非常に限られています。こういった指導に有能な人材を充てていきたいのですが、なかなかどの学校も上手くいってないという状況があります。

ですから、例えば地域の方で、指導していただける方がいらっしゃれば、マーチングの指導に来ていただくのは学校として非常にありがたいと思います。

ただ、小学校側が指導に来ていただきたい時間と指導に来ていただける方の時間調整が上手くマッチングできるかということが懸念されます。中学校でも、中山間部の学校吹奏楽部に他市から指導来てにいたいでいるなどの例もありますが、人材が非常に少ないというところが一番の課題あります。

学校教育課長

コミュニティ・スクールの中で課題としてあがつたということであれば、学校と課題を共有して、学校としても大きな課題であると判断されれば、校長をおいて、学校の希望として教育委員会にも上がってくると思います。

そうしますと、今、教育長が申し上げたとおり、そのような指導ができる教員はどれくらいいるか、どこに配置されるかなどの情報は入ってくるのですが、こういった教員は限られており、また非常に少ないという現状があります。ただ、市内の小学校で吹奏楽を行っている学校は限られていますが、その中でもこういった教員がいないという現状があり、音楽の経験のある臨時採用の教員がついたりすることもありますので、地域の方で指導していただける方とかを発掘したいし、むしろこういった人材がいれば教えていただき、地域の方にご協力いただきたいと思います。

教育長

その他、ご質問ありませんか。

それでは、議案第43号を決定いたします。

その他に何かご質問ございませんか。

なければ、ブロック塀改修工事と空調設備設置工事の学校現場への視察に移ります。

【視察箇所】（1）周南市立周陽小学校（ブロック塀改修工事）

（2）周南市立周陽中学校（空調設備設置工事）

教育長

皆さま、お疲れ様でした。

それでは、以上で、平成30年第12回教育委員会定例会を終了いたします。

署名委員

池永 博 委員 _____

片山 研治 委員 _____